

デザインは好ましい状況を創出することを目指して工夫するという有目的 (purposive) な行為です。デザイン科学 (design science) は好ましい状況における人間と環境の関係のあるべき姿やありたき姿を思い描き, その実現に貢献する法則性, 図式, 類型などを見だし, それらの法則性や類型を適用することによる帰結を想像しつつデザインを実践し, 実践によって創出される人間と環境の関係を認識し, 新たな人間と環境の関係の創出と実現に貢献する法則性, 図式, 類型を創造 (発見) するという過程を繰り返す学であり術であります。デザインにおける思考には科学的探究と通底するものごとがあります。想像力を働かせて原理的なものごとを発想すること, 論理的思考力を働かせて原理から導かれる現象を演繹的に推論すること, 観察力や直観を働かせて具体的現象に共通する法則性や類型の構造を帰納的に見いだすことなどがそれにあたります。

藤井晴行研究室はデザイン科学及び建築計画基礎・原論を専門とする研究室です。デザインを合理的かつ非合理的になすことに貢献する基礎理論 (人間と環境と建築の間の法則性, 図式, 類型) を探究しています。探究は哲学, 認知科学, 知能情報学, 芸術の専門家たちとの共同によるものです。探究の基底にある問いは「デザイン (設計) するとはどういうことか?」, 「デザイン・マインドとはいかなるものごとか?」です。これらの問いを念頭に, 「デザインにおける思考と意味の創出のプロセスの研究」, 「デザイン学のデザイン」, 「次世代デザインカリキュラムの開発ワークショップ」, 「象徴的空間と音楽との構成的共通性を利用した先端芸術表現」などを行なっています。また, 実務的活動として, 「建築環境設計における一般教義(ISO)の維持・更新」, 「環境共生住宅の設計及び設計手法の構築」などを行っています。

学生たちは上記の問い, 研究, 先端芸術表現, 実務的活動と関わりがあるテーマを設定し, 「自分ごと」としての研究と実践に取り組んでいます。デザイン・マインドを働かせて構成のループ (右図) をまわし, 計算機プログラミング, 数学的思考, 数理科学, 現地調査, 共同作業などの手法を用いることによって, 研究や実践を遂行します。キーワードは「構成的方法論」, 「一人称研究」, 「知のデザイン」, 「自立共生的」などです。

エンジニアリングデザインコース, または, 建築学コースを選択可能です。

